

101-127

問題文

この疫学調査に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. この調査は、症例対照研究である。
2. 1961年の時点で、四日市市内では頻繁に酸性雨が認められていた。
3. 対照地区でも気管支ぜん息の受診があったことから、二酸化硫黄が原因物質である可能性は低いと考えられる。
4. 1961年以降、汚染地区で、気管支ぜん息の受診割合が対照地区に比べ多いことから、二酸化硫黄曝露と健康被害との間には関連があると考えられる。
5. 二酸化硫黄濃度が高くなると、気管支ぜん息の発作回数が増加する傾向が認められる。

解答

4, 5

解説

選択肢 1 ですが

これは、前向き研究なので、後ろ向き研究の代表例である「症例対照研究」ではありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

酸性雨とは、一般的に pH 5.6 以下です。図より、pH は 1961 年時点では pH 6.0 付近と読み取れます。従って、1961 年時点で頻繁に酸性雨が認められていた とは調査から読み取れません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

受診割合に明らかな違いがあれば、原因物質である可能性は低いとはいえません。そして、対象地区では調査機関を通じて 1 % 付近であるのに対し汚染地区では、2 % 前後です。以上より、可能性が低いとは考えられません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4,5 は、正しい選択肢です。

以上より、正解は 4,5 です。